

特定非営利活動法人 日本免疫学会

平成 27 年後期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award

研究発表報告書

申請者氏名	佐藤 精一	会員番号	0034378
申請者の 所属・職名	北海道大学 遺伝子病制御研究所 分子生体防御分野 助教		
出席会議名	2015 International Meeting on Molecular Biology of Hepatitis B Virus		
発表論文 タイトル	Dual function of RIG-I as an innate antiviral mediator against hepatitis B virus		

実施結果:

この度は平成27年後期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Awardに選出していただきまして、誠にありがとうございました。岸本忠三先生をはじめとする選考委員の先生方、そしてご推薦くださった北海道大学 遺伝子病制御研究所の高岡晃教先生に心より御礼申し上げます。

今回、私は、2015年10月4日から8日にかけてドイツにあるバートナイハイムで開催された2015 International Meeting on Molecular Biology of Hepatitis B Virusに参加して参りました。さまざまなB型肝炎ウイルス (HBV) の分子生物学的なテーマに、第一線で活躍する基礎や臨床の研究者が一堂に会し、最新の研究成果をもとに活発な議論が行われました。

私は、大きく9つに分かれたセッションの中で、Innate Immune Responsesというセッションにて、"Dual function of RIG-I as an innate antiviral mediator against hepatitis B virus"というタイトルで、RNAセンサーとして知られるRIG-IがHBV感染において、複製途中のpregenomic RNAを認識し、自然免疫応答を制御するセンサー分子として機能するのみならず、RIG-Iが直接的な抗ウイルス因子としての新しい役割をもつことについて、ポスター発表を行いました。多くの海外の研究者とディスカッションすることができ、自分が考えていなかった課題など見付き、非常に勉強になりました。また、国際学会の参加により現在の自分の立ち位置を知ることができました。そして何よりも今後研究を行っていくうえで、モチベーション向上において非常に有意義な機会を与えていただきました。私は、自然免疫応答について研究を行っておりますが、私の発表以外にも、多くの自然免疫応答に関連する演題が発表されており、いろいろな切り口からのアプローチがとられており、HBVを多角的に捉えることができ大変勉強になりました。さらに、国内外で活躍する同世代の基礎研究者の方々と知り合い意見交換することで、多種多様な研究スタイルを知るとともに、自分自身の将来設計を考える上でも大変有意義な機会となりました。

最後に、本研究の共同研究者の皆様、研究室の皆様のご協力、ご指導に感謝申し上げます。今回の平成27年後期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Awardの受賞を励みとし、今後研究に益々精進していきたいと思っております。